

令和6（2024）年度生涯学習・社会教育関係職員パワーアップ講座③実施報告

実施日：令和6年11月6日（水）

本研修は、生涯学習・社会教育主管課や公民館、図書館、関連施設等の職員を対象に、社会の要請に応じた生涯学習・社会教育行政を一步ずつ着実に推進するため、各自治体で取り組もうと考える施策を実現・実行するために必要な知識や技術の習得を目指します。

第3回の研修では、エビデンスに基づいた生涯学習・社会教育行政の推進に関する知識や技術として、EBPM やデータ分析について、オンラインによる講話と演習を行いました。

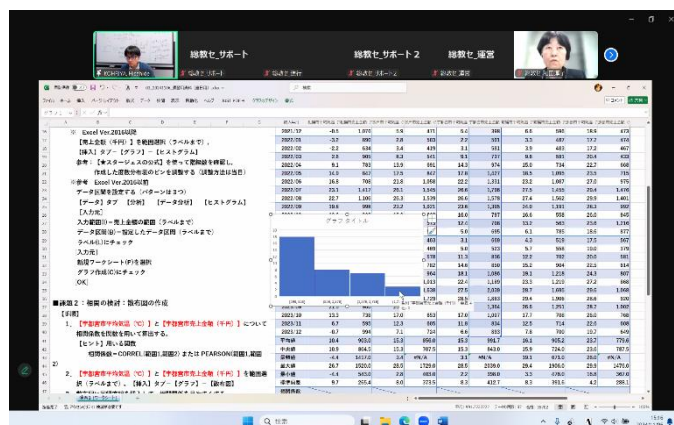
○講話・演習「エビデンスに基づく政策立案の妙技」

北海道科学大学 全学共通教育部 郡谷 寿英 氏

はじめに、EBPM の再確認として、第4期教育振興基本計画のキーワードには「客観的な根拠を重視した教育政策のPDCA サイクルの推進」や「調査結果に基づいたデータ等の分析」などが含まれており、教育事業をより効果的なものにするためには、指標が必要であるという説明がありました。

次に、エビデンスを生成するための基本的な考え方として、エビデンスは施策評価に有用な統計的情報であることや、各種データの種類と使い分け方、評価の活用方法について話されました。

最後に、PPDAC（問題・計画・データ収集・分析・結論）サイクルの手順に基づき、丁寧に説明いただきながら、演習用のエクセルデータを用いた演習を行いました。実際に操作をしながらデータを分析していくことで、学んだことが身に付きやすい演習となりました。郡谷先生には、オープンデータとして活用できる事例も紹介していただいたので、受講者の実務を支援することができたのではないかと思います。



○協議「EBPM の視点による施策の検討」

総合教育センター職員

協議では、これまでの研修を通して、受講者が作成したポンチ絵について話し合いました。どのような状況で誰を対象に説明をする際のポンチ絵であるのか、受講者が簡単に説明をしてから、参加者が意見を述べ合うという形で協議を進めました。作成者の所属や立場によって、作成したポンチ絵の形式や内容は様々でしたが、共通して出た意見は「どのポンチ絵も相手意識や伝えたいことが明確で、作成者の意図がよく伝わっていた。」ということでした。

☆受講者の声（アンケートから）

- ・EBPM への理解やPPDAC サイクルの仕組みを初めて知ることができました。また、それぞれ他の機関の事業や政策立案を共有していただいたことで自分の所属機関に留まらない意識を持つことができたと思います。



研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp